

国際環境工学部 情報メディア工学科 教育における三つの方針

学位授与方針 [学士(工学)]

- 知識・理解
 - 人間と「自然・環境」「思想・文化」「地域社会」「国際社会」「歴史」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。【総合的知識・理解】
 - 数学・物理・化学などの自然科学に関する基礎学力と工学全般の基礎知識を身につけている。【専門分野の知識・理解1】
 - 情報メディア工学の要素技術に関する幅広い基礎知識とその関連分野の知識について、人間、社会、環境と関連づけて理解している。【専門分野の知識・理解2】
- 技能
 - 情報通信、信号処理、ソフトウェア開発、集積回路設計などの基本的な技能を身につけている。【専門分野のスキル】
 - 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。【英語力】
- 思考・判断・表現
 - 情報環境が生み出す諸課題について、情報メディア工学の本質を捉えた解決法を考察・立案し、その実践結果を評価することで結論を導き出すことができる。【課題発見・分析・解決力】
 - 自らの思考・判断のプロセス、結論を適切な方法で表現することができる。【プレゼンテーション力】
- 関心・意欲・態度
 - 情報化社会の時代の変化に対応して自己の能力を高め、社会に貢献することができる。【実践力(チャレンジ力)】
 - 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。【自己管理能力1】
 - 「人間全般」や自分自身についての省察を深め、自らの持つ可能性を見出し、将来のキャリア構築に向けて積極的・主体的に準備行動ができる。【自己管理能力2】
 - 技術が社会に及ぼす影響を理解し、社会的責任感と倫理観を身につけている。【市民としての社会的責任・倫理観】
 - 情報メディア工学に関する様々な問題に関心を持っている。【生涯学習力】
 - 組織の中で、他者と議論し協働しながら目標に向かって行動することができる。【コミュニケーション力】

教育課程編成・実施方針

情報メディア工学科では、教育目標を達成するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

- 「基盤教育科目」から32単位以上、「専門教育科目」から98単位以上を修得する。
- 「基盤教育科目」は、卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的とする科目群とする。「教養教育科目(人文・社会科目)」から16単位以上、「教養教育科目(環境科目)」から8単位以上、「外国語教育科目」から8単位以上を修得する。(詳細は別記)
- 「専門教育科目」は、電子・情報・通信工学の基本知識と能力を修得し、システム開発やサービス創造に必要な論理的な思考能力、分析力、設計力を養うことを目的とする科目区分とする。「工学基礎科目」から25単位以上、「専門科目」から65単位以上、「卒業研究」から8単位を修得する。各科目群の詳細は以下のとおりとする。
 - 工学基礎科目
「専門科目」を学習するために必要な数学、物理に関する理工学の基礎を1年次に配置する。
また、情報メディア工学を学ぶツールとして計算機を利用する演習科目を配置する。
必修科目を含め、25単位以上を修得する。
 - 専門科目
通信・メディア、及びコンピュータシステムについてより高度な専門科目を学ぶために、関連する科目を2年次より積み上げ式に配置する。
また、修得した知識を実際に活用できる能力を確実に身につけるために、上記の専門科目群について計算機プログラムを介したシステム解析・開発等の演習と実験を系統的に行う。
さらに、2年次、3年次に共通の題材を扱い、自発・自律的な課題の発見・分析・解決のための能力を養う。
必修科目を含め、65単位以上を修得する。
 - 卒業研究
情報メディア工学の基礎科目および専門科目で修得した基礎知識、基礎的技能、解析および分析能力を、具体的な研究テーマに応用することで、課題発見・解決能力、実践力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を向上させることを目的として、4年次に配置する。8単位を修得する。

入学者受入れ方針

情報メディア工学科では、次のような学生を求めています。

- 明確な目標を持ち、そのための努力を惜しまず、常に自らの能力向上を図る意欲のある学生
- 情報環境の生み出す諸問題に関心を持ち、その解決のために情報メディア工学を応用する意欲を持っている学生
- 情報化社会の時代変化に対応して社会に貢献したいという意欲を持ち、その基盤となる数学、物理などの基礎学力を持っている学生
- 日本語と英語を基礎としたコミュニケーション能力を持っている学生